の形と表面の模様は図１に示したように明瞭な違いが認められる。またテンツキまたはホソバテンツキとは，小穂に稜角があり，鱗片は広卵形で鋭頭，全体に褐色味が強く，やや光沢があり，緑色の明らかな竜骨がある，などの点で区別できる。オオアゼテンツキでは小穂の長さ 3-5 mm，幅 1.5 mm であるのに，テンツキでは長さ 4-7 mm，幅 2.5-3 mm である。

本種は以上のようにホソバテンツキあるいはアゼテンツキ類と混同されている可能性があり，更に精査すれば千葉県以外でも見いだされる可能性がある。また本種が千葉県に比較的新しく移入された可能性も考えられるが，既に1956年に採集されていることからみると，古くから土着していたと考えてもおかしくはない。以下に千葉県での確認された標本産地を挙げておく。

市原郡市原町五井（若名東一 1956.8.5；千葉県立中央博物館・栃木県立博物館蔵），印旛郡印旛村平賀（谷城勝弘 1988.7.7；1988.7.28；1989.7.23），印旛郡本埜村甚兵衛（谷城勝弘・野口達也1988.9.25），成田市下方（谷城勝弘 1988.8.2；1988.8.10），香取郡東庄町新宿（谷城勝弘・岩瀬徹 1989.8.8），佐倉市土浮（谷城勝弘 1989.8.5；1989.8.29；1989.9.18）。このうち印旛村平賀と佐倉市土浮の標本は千葉県立中央博物館に納めた。

ご教示いただいた伊藤至，金井弘夫，岩瀬徹，大場達之，野口達也の諸氏と，走査電顕写真を撮影していただいた遠藤泰彦氏に御礼申し上げます。

（千葉県立成田西高校　谷城勝弘 Katsuhiro YASHIRO）

□永野　巌：**埼玉四季の植物** 316 pp.，カラー図版 16 pp. 1990. 埼玉新聞社，浦和市. ¥2,200（税込）. 春夏秋冬 100 のテーマを選んで埼玉県の植物を縦横に語った科学読み物であるが，特に著者（埼玉大学教授）が得意とする森林生態学の面からの説明は興味深い。各テーマ１～３個の写真や図，それと巻頭のカラー写真は美しく，かつ珍らしい事物が多い。一般県民を対象にしたとされているが，県外者ことに植物に親しむ人々にはおもしろく有益な本である。巻末の資料編は，気候と植物の分布，山の高さによって変わる森林，といったことについての解説で，埼玉県の自然風土と森林分布の特徴などを学ぶのに工合よい。　（伊藤　洋）